

2 0 1 5 年 1 1 月 1 3 日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
12-5 小伝馬町 Y S ビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 TEL.03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

国内・世界の光源 / 照明市場を調査

2 0 3 0 年市場予測

照明器具、管球ランプ、LEDは国内14年比マイナス、世界同プラス。有機ELは国内・世界共に同プラス

深紫外光LED 水・空間の殺菌、検査・計測、医療応用など様々な用途で活用され46億円突破

照明制御ソリューション事業 大、中小規模向け共に堅調に拡大、2014年比53.4%増の471億円

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、エネルギーの効率性などの利点により従来の光源からLED / 有機ELへの切り替えが進み、近年では光源そのものの高性能化や照明の制御による省エネルギーなどの提案といったソリューション事業の展開といった付加価値提案が続く光源 / 照明市場を調査した。

その結果を報告書「[Special Appli. 光源 / 照明市場 実態・技術・予測 2015年版](#)」にまとめた。

< 調査結果の概要 >

国内一般照明市場

	2014年	2020年予測	2030年予測	2014年比
照明器具	6,055億円	5,870億円	4,658億円	76.9%
内、LED	4,500億円	5,495億円	4,088億円	90.8%
内、有機EL	3億円	243億円	570億円	190倍
管球ランプ	2,574億円	1,886億円	891億円	34.6%
内、LED	1,055億円	1,022億円	699億円	66.3%

2014年の国内照明器具市場は、前年比2.5%減の6,055億円となった。LED化が進んだことで、リプレース機会の減少、サイクルが長期化し、LED照明器具自体も一般化に伴う新光源としての訴求力低下や大口需要の一巡、製品の低価格化が続いているため、市場を押し上げるには至らず縮小となった。

LED照明器具は光源一体型ベースライトとHID灯の代替照明器具が市場をけん引するものの、前年比10%を超える成長から2015年以降は微増になるとみられる。

有機EL照明器具は本格的な市場が形成されていないものの、ホテル・レジャー施設で有機ELを用いた演出・装飾照明の導入がみられ、用途開拓の足がかりになると期待される。有機ELの大幅な低価格化が期待できる2017年以降徐々に拡大するとみられる。

2014年の国内管球ランプ市場は前年比7.3%減の2,574億円となった。LED照明器具の普及に伴うセット向け出荷やリプレース機会の減少、長寿命化によるリプレースサイクルの長期化、白熱ランプに続き電球型蛍光灯ランプなど従来光源の生産縮小・終了など様々な要因が重なり今後市場は長期的に縮小していくとみられる。

LED管球ランプは、2013年から2014年にかけて、新興プレイヤーの撤退・淘汰が進み、主要プレイヤーの固定化がみられた。また低価格化が進んでいることから、LED事業の収益性改善に向け、付加価値の高い器具の販売に注力する動きがみられた。従来の光源のストック市場からのリプレース需要と、初期に導入されたLED管球ランプからのリプレース需要により、今後も市場は支えられると予想される。一方、ユーザーの購買意欲は盛り上がり欠け、光源一体型のLED照明器具市場へのシフトも加速することから、今後は緩やかに市場が縮小すると予測される。

世界一般照明市場

	2014年	2020年予測	2030年予測	2014年比
照明器具	5兆8,310億円	8兆3,050億円	12兆9,050億円	2.2倍
内、LED	1兆6,500億円	4兆6,800億円	8兆9,400億円	5.4倍
内、有機EL	10億円	5,750億円	2兆2,350億円	2,235.0倍
管球ランプ	2兆6,950億円	2兆8,400億円	3兆250億円	112.2%
内、LED	6,350億円	1兆3,300億円	1兆7,700億円	2.8倍

2014年の世界一般照明市場は前年比3.9%増の5兆8,310億円となった。

LED照明器具はLEDパッケージの性能向上と同時に低価格化の進展によって、先進国から新興国まで、採用が一般化しつつある。世界的にも日本市場がLED照明の普及拡大に先行しているが、欧州、北米市場においても照明器具のLED化は加速している。新興国に関しても同様で現状の高級住宅、ホテル、店舗などのハイエンドユーザーから、将来的にはミドルレンジのユーザーまで採用が広まるとみられる。

2014年の世界管球ランプ市場は2.7%増の2兆6,950億円となった。白熱ランプの販売規制を受けて、LED管球ランプが代替し、LED電球を中心に拡大している。また2020年以降の水銀規制強化を受け、高圧水銀ランプのLED管球ランプへのシフトも期待される。

<注目市場>

深紫外光LED【次世代光源・有望ソリューション】

2014年	2020年予測	2030年予測	2014年比
僅少	5億円	46億円	-

光の波長において、短波長(200nm~300nm)の紫外線であり、生物のDNAを破壊する「深紫外線」を発光するLEDを対象とする。

深紫外光LEDは水・空間の殺菌、検査・計測、分析、医療応用、将来的には家電や住宅設備機器への採用など様々な用途で応用が期待されている。280nm以下の紫外線がDNAを破壊する特性を生かし、水の殺菌や閉鎖空間でのウイルス蔓延の防止や、皮膚治療などの医療応用、水質・排ガスなどの環境計測やバイオ・化学物質の検出、分析といったセンサーデバイスとしての採用も想定される。

ウェアラブルデバイス用光源【次世代光源・有望ソリューション】

2014年	2020年予測	2030年予測	2014年比
138億円	1,259億円	730億円	5.3倍

ウェアラブルデバイスは健康管理を目的としたスマートバンド、スマートウォッチ、HMD(ヘッドマウントディスプレイ)とし、光源はこれらに採用される有機EL、LED、単色LED、緑色LED、レーザー光源を対象とする。

有機ELは情報表示デバイスの光源として採用され、スマートウォッチにおいては2015年に発売された「Apple Watch」(Apple)への採用が契機となり、市場が拡大するとみられる。LEDはスマートウォッチ市場の拡大によって成長が期待される。しかしアプリケーション1台あたりに採用される個数が少なく、またLED1個当たりの単価も安価であることから金額ベースでは大きな拡大には至らないとみられる。レーザー光源は高輝度、高色再現性、低消費電力という特徴があり、採用アプリケーションであるHMDの成長も期待され、2017年以降本格的に市場を形成するとみられる。

照明制御ソリューション事業【次世代光源・有望ソリューション】

2014年	2020年予測	2030年予測	2014年比
317億円	354億円	471億円	148.6%

照明制御システムおよびそれをういた省エネ提案のソリューション事業を対象とする。照明制御システムは電気線に加え信号線を用いる有線式と、無線通信を用いた無線式に分けられる。

照明制御ソリューションはオフィス・ビルや店舗、各種施設の照明の点灯・消灯制御によって施設の省エネルギー化を図ることを提案する事業である。中でも中・小規模向けでは大手照明器具メーカーなど多数の企業が無線制御システムやオープン規格を用いたシステムの提案を活発に行っている。各社得意とする販路に無線制御システムを中心とした提案・販売が増加することで、今後市場拡大が期待される。

<調査対象>

【国内・世界一般照明市場】

照明器具	電熱/放電灯器具	白熱灯器具、ハロゲン灯器具、蛍光灯器具、HID灯器具、冷陰極管灯器具、無電極放電灯器具
	LED照明器具	白熱灯代替形、ハロゲン灯代替形、蛍光灯代替形、HID灯代替形、冷陰極管灯代替形
	有機EL照明器具	有機EL照明器具
管球ランプ	電熱/放電ランプ	白熱ランプ、ハロゲンランプ、蛍光ランプ、HIDランプ、冷陰極蛍光ランプ、無電極ランプ
	LED管球ランプ	白熱ランプ代替形、ハロゲンランプ代替形、蛍光ランプ代替形、HIDランプ代替形

【世界光源市場】 網掛けの品目は国内市場動向の調査を実施

ランプ	可視光ランプ、紫外光ランプ、赤外光ランプ
LED	可視光LED(単色LED、白色LED)、紫外線LED、赤外線LED
有機EL	有機EL光源
レーザー	半導体レーザー(FP・DFB・VCSEL)

【世界有望特殊光源・アプリケーション市場】 網掛けの品目は国内市場動向も調査を実施

注目アプリケーション	バックライト用光源、プロジェクタ光源、 キュアリング用 、自動車外装ランプ、自動車内装ランプ、殺菌用
------------	---

【世界次世代光源・有望ソリューション市場】 網掛けの品目は国内市場動向も調査を実施

次世代光源・アプリケーション	有機EL光源、深紫外光LED、高機能・次世代LED、次世代自動車ヘッドライト用光源、ウェアラブルデバイス用光源、 植物育成用光源
有望ソリューション	照明制御ソリューション事業、照明・演出ソリューション事業

<調査方法> 富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体などへのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間> 2015年6月～8月

以上

資料タイトル:「**Special Appli. 光源/照明市場 実態・技術・予測 2015年版**」

体 裁: A4判 322頁

価 格: 書籍版 120,000円+税

PDF版 120,000円+税

書籍版・PDF版セット 140,000円+税

書籍版・ネットワークパッケージ版セット 240,000円+税

発 行 所: 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル

TEL: 03-3664-5811(代) FAX: 03-3661-0165

<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

[e-mail: info@fuji-keizai.co.jp](mailto:info@fuji-keizai.co.jp)

調 査・編 集: 大阪マーケティング本部 第三部

TEL: 06-6228-2020

FAX: 06-6228-2030

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>